

【図画工作科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 作品をより良くするために、どのように表現したらいいのか質問したり、主体的に既習事項を思い出したりして、身に付けた知識や技能を生かそうと取り組む児童が多く見られた。
- 個別に声掛けし、教師が実演して見せることで、作りながら考えて進めることができた。
- △コロナ対策を行い、児童の安全を確保しながら授業を行う。

2 学習状況の分析と課題

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
学習状況の分析	低学年は、手や体全体の感覚などを働かせ、身近な材料や用具に十分に慣れることができる。中学年は、材料や用具を使いこなすために、試行錯誤し工夫しようとしている。高学年は、自分の思いを表現するために色や形を考えて表す力が向上している。	低学年は、好きな形や色を選んだり、色々な形や色を考えたりして、どのように表すか考えることができる。中学年は、用具の特徴を感じながら、考えたことを試して作ることができる。高学年は、材料の特徴や用具を生かし、試しながら発想を豊かに広げていく力が向上している。	低学年は、楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。中学年は、思いついたことをたくさん試してみる等、意欲的に取り組むことができる。高学年は、作品をよく見て、細かい部分まで作ろうと取り組むことができる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が材料や作品と向き合い、粘り強く作品に取り組みやり遂げ、より良い作品を作ることに課題がある。 ・鑑賞活動では、根拠を明確にしながら自分の意見を言葉にすることや、鑑賞の視点が偏っている児童が見受けられるのが課題である。 		

3 授業の具体的な改善策

目標	<p>新学習指導要領の教科の目標</p> <p>表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、生活体験や思い、学校生活で学んだことを作品に表現したり結び付けたりしやすい題材を設定する。 ・作業手順を板書で短文や図で明記し、どの児童も見通しをもって制作活動に取り組めるようにする。 ・活動中は、作品との対話を大切に、各自集中して活動させ、途中で気付きを発表し共有する学び合いの時間を確保する。 ・作品が完成するたびに振り返り、文章を書いて自分の学びを深められるようにする。
学年段階別改善策	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の安全面について学級全体で確認する際は、発問して考えさせ、提示することで印象付ける。 ・作品例を見せたり実演指導したりして、活動のイメージをもたせやすくする。 ・児童の主体的な活動や表現の工夫、成長に対し、価値付けとなる声掛けを行い、学級や学年で共有する。 ・自他の作品を振り返り、よさや面白さを見付けて、言葉で表す時間を確保する。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心をもって題材に取り組めるように、題材設定を工夫するとともに、使用する材料の材質や大きさを十分検討する。 ・発想の手助けやアイデアの共有をするために、アイデアスケッチを活用する。 ・材料を生かして作品を作るために、材料の特徴をじっくり確認し、気付いたことを学級で共有する時間を確保する。 ・用具の基本的な扱い方や活用を、発問や掲示物で示し、共有して、基本的技能の習得を図る。 ・各作品で活動途中や完成後に、作品の鑑賞会の時間を設け、ワークシートに『どう感じたか』『理由は』など、視点を変えて具体的な言葉で書かせたものを交流させ、学級で共有し、教員が価値付けをする。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料を、既習事項を生かして、生活や思い、身近な芸術と結び付けながら表現できるような題材を設定し、用途や美しさを考えさせながら取り組ませる。 ・色彩や色の濃淡の効果、奥行き、受ける印象などを考えながら、材料や技法の組み合わせ方を工夫させることによって児童の作品に、より深みをもたせ児童の自信につなげるようにする。 ・自他の作品、親しみのある作品のよさや美しさを、多角的視点で理由を含めて詳しく言葉で表現させる。 ・授業のめあてを確認し、めあてをもとに自分の思いを膨らませ、表現することで知識・技能を身に付けることができるようにする。